

---

# 届かない贈り物

夕暮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

届かない贈り物

### 【Nコード】

N0165Y

### 【作者名】

夕暮

### 【あらすじ】

「僕」は過去に起こった過ちをただすためにあることをする。  
そして…。

## プロローグ

周りの皆は「夢がある」ってなんかいわなくなってる。  
というか、皆ないんだ。

僕だってその一人だ。

迷って歩くのは嫌だけど

そのために

目的見つける方がもっと難しいからもっと嫌だ。

面倒くさいって思ってしまう。

でも、皆一緒だろ？って

でもやらなくちゃ。

頑張らなきゃ。

そう思う気持ちもあったんだ。

僕はいつそ、夢なんか持たないほうがいいんじゃないかって  
思い始めていた。でも

そう、学生のころのあのときに

急に起こったことなんだ

## めんどくさいクラスメイト（前書き）

「僕」は過去に起こった過ちをただすためにあることをする。  
そして…。

## めんどくさいクラスメイト

イチー、もう授業終わったよって声が聞こえて  
僕は手を止めた

『頑張るね、私たちなんか到底カズには届かないや』  
皆、僕を尊敬するような口調でいつも褒めてくる。

僕はいつもそれが嫌だった  
皆のほうが頑張ってるよ、とお世辞を言い  
勉強道具をとつとその場から離れた

『待ってー!!』

後ろから、声がきこえる

声の主はわかるから、あえて振り向かない  
でも、あるく速度は緩めた

『さあ！今日は連れてってよね!』

新井玖美だ

「…何しに来た」

無愛想に言葉をかけると

『だって今日月イチで、アソコに行く日でしょ?』

「塾じゃない」

『じゃあ、なんなのよ』

「知り合がいる。…それだけ」

『…わかった。その人に勉強教えてもらうんでしょ』

なぜ、こいつが勉強の方向に持っていくのか分からない

「あの人はおしえてなんかくれない」

『独り占めするきだあ〜ひどいなあ』

僕は走った

『あつ、卑怯者オ!』

僕は特別足が早くないけれど

あいつの足遅いことを知っているから  
さっさと置いて行ける  
いつもの巻き方だ

どこですか？

なかなか、おもっているとおりにいかない店主だ  
なぜかって？

そりゃあ…

『俺は、反対だ』

なんで俺みたいなのになろうとするのか  
意味わかんねえ』

「人の勝手だろうが」

『…それが女の口か』

「それ以外に何が見える」

『へいへい』

で、危険承知でやるのか』

当たり前だ、と僕はうなづく

「もう、この格好は御免だ」

『ハア、…わかったよ』

一通り機械の説明してくれた。

「わかった」

『無事を祈るぜ』

アクセルを手で思いつき引っ張り

スツ　といなくなった

『頑張れよ我が弟、もしが帰って来なかったときは  
この地球がなくなるんだぞ』

さあ、続き。と言って、

研究所に入っていった。

不思議だ。

引っ張られる感じじゃない、

かといつて、浮いているようでもない。  
まるでさまよっている様だ。  
そう、長くたたないうちに光が見えた

『なんだこいつは』

『そこにいつの間にか落つこちてたんだ。』

『ありや！？女の子じゃないか！』

カラダを冷たくしてえ、かわいそうに』

『風呂に入れておやり』

目を開けると目の前にたくさんの人  
ん？

「うぎやあああああああ！！！！」

皆、びつくりしている

僕自身も。

『女の子にしちゃあ元気ありすぎな子だねえ』

一番近くにいたおばさんが話しかけてくる

「あの、…ここは」

『あたしんちだよ』

あたしたちの庭にぶつたおれていたのさ』

そうだそうだ、と周りの子供たちも言う

「どうも、ありがとうございます。」

座って礼を言った

『一応風呂に入れて、着物も洗濯して置いたからね』

「ご迷惑をおかけして…」

『迷惑なんかじゃないよ！』

そばにいた女子が言った

『全然、違うよ！』



「そ、そうか？」

『しかし、うちの庭になぜたおれて？』

「さあ、よくわからないんです。」

『どちらさんだい？』

「申し遅れました。」

僕は、鹿糠逸と言います。」

『か、鹿糠?!?!?!』

皆、動揺している

「どうかされました？」

『あの、ぼくらは鹿糠です』

はあああああああ!?!?!?!

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0165y/>

---

届かない贈り物

2011年11月5日19時11分発行